

北海道十勝地方の鳥類

10. 十勝川下流沿いの沼のカモ科鳥類

奥山美和¹・藤巻裕蔵¹

(受理: 2001年5月31日)

Birds of Tokachi District, Hokkaido 10. Anatids of shallow lakes along the lower reaches of the Tokachi River

Miwa OKUYAMA¹ and Yuzo FUJIMAKI¹

要 約

北海道十勝平野南部、十勝川下流沿いにある池田キモントー、育素多沼、大沼、三日月沼、トイトッキ沼の5か所の水域で、2000年4~9月にカモ科鳥類の生息状況を調べた。カモ科鳥類18種が観察された。そのうちマガン、ヒシクイ、ハクガンの3種はおもに春と秋の渡り時期に、オオハクチョウは春に飛来した。水面採餌ガモはマガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、シマアジ、ハシビロガモの8種で、そのうちマガモ、カルガモ、ヨシガモは4~9月を通して、その他の種はおもに春と秋の渡り時期に観察され、マガモとヨシガモはこの地域で繁殖した。潜水ガモは、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサの6種で、おもに春と秋の渡り時期に観察された。個体数は渡り途中の個体の飛来で、おもに秋と春の渡り時期に増え、個体数の上では潜水ガモより水面採餌ガモの方が多かった。

キーワード: 北海道, カモ科鳥類, 沼, 十勝平野

十勝川は大雪山系に源を発し、十勝平野を流れて太平洋に注ぐ。かつてその下流部地域は広大な湿原で、川はこの中を大きく蛇行して流れ、湿地には大小さまざまな沼が散在していた。現在十勝川の中・下流部は河川改修により直線化され、川沿いの堤内は都市や農耕地となっているが、一部残された沼と改修後にできた河跡湖がある。

これらの水域とその周辺は、春と秋にはカモ科鳥類

の渡り中継地、また春から夏にかけては一部のカモ類の繁殖地となっており、自然環境がほとんど残されていない十勝平野の中では、水鳥類の数少ない生息地になっている。しかし、十勝川下流沿いにある水域における水鳥類の生息状況については、具体的に調べられた例は少ない。

これらの水域に、どのようなカモ科鳥類が飛来・生息するかについて明らかにするため、十勝川下流域と

帯広畜産大学畜産環境学科生態系保護講座 〒080-8555 帯広市稲田町
Laboratory of Wildlife Ecology, Department of Agro-Environmental Science, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Inada, Obihiro 080-8555, Japan

海岸部に点在する5つの沼・海跡湖で2000年の4～9月に調査した。また、その結果を十勝地方の他の水域における鳥類調査結果と比較し、この地域のカモ科鳥類相の特徴を明らかにした。

調査地と調査方法

調査地は、十勝川下流部沿いにある次の5か所の沼と河跡湖である (Fig. 1)。

1. 池田キモントー。十勝川と利別川の合流点から約3km上流の左岸にある河跡湖で、面積は約21ha、周りは堤防と農耕地に囲まれ、岸の約95%にはヨシ、ガマが生育し、そこから堤防側にかけてセリ科植物やイネ科草本が、堤防法面から堤防上にかけては、そのほかにヨモギ、オオイタドリ、マメ科草本、イネ科草本が生育している。また堤防の沼側法面の下にはヤナギやニワトコなどの低木が疎生する。沼には低木とヨシが生えている中州があり、その面積は全体の約30%を占めている。夏には水面の一部をコウホネなどの浮葉植物が被うようになる。
2. 育素多沼。十勝川から約1kmの位置にある。これまでに周囲は埋め立てられて農耕地となっており、現在の面積は約18haである。沼の周囲は農耕地で、農耕地と沼の間には幅数m～50mのヨシ原があり、岸沿いにはヨシ、ガマ、フタイが生育し、沼と農耕地の境界にはヤナギやニワトコなどの低木が生えている。沼内部にはヒシ、コウホネなどの植物が水面を被うように生育している。
3. 大沼。十勝川から約1.4kmの位置にあり、面積は約25haで、周囲は農耕地である。岸はヨシ原となっており、ヨシ原を取り囲むようにヨモギ、イラクサ等の植物が生育し、沼の北東部ではヤナギ類やヨシが沼の内部に入り込んで密生している。沼の水面の約40%ではヒシ、コウホネ、ヒツジグサなどの浮葉植物が繁茂している。
4. 三日月沼。十勝川から約2kmの位置にあり、面積約14haの三日月型の河跡湖である。沼はヨシ原に囲まれ、その外側にはヨモギ、フキ、イラクサ、ヨブスマソウ、オニシモツクなどの高茎草本が生育し、その中にヤナギ類、ニワトコ、ハンノキが疎生していて、さらにその周囲は牧草地や放牧地である。夏に沼水面の約30%にヒシ、コウホネ、ヒツジグサが

生育する。

5. トイトッキ沼。十勝川と浦幌十勝川によって囲まれた地域にあり、面積42haの逆L字型の沼である。ただし調査したのは、このうち南部の面積28ha分である。海岸線からの距離は最も近い所で100mほどであり、沼の先端は十勝川の河口近くで合流しているため、沼の水位は十勝川の水位や潮の干満と共に変化する。沼の一部の岸沿いにヨシが、海岸側ではハマナスなどの海岸植物やヨシ、トクサが生育し、沼の周辺は牧草地と放牧地である。

調査期間は、2000年4月下旬～9月下旬である。調査回数は4月後半には1回、その他の月には各月の前半と後半に2～3回ずつである。各調査地に全体を見渡せる観察場所を1～3か所設け、おもに午前中に調査地1か所につき約30分から1時間、双眼鏡または望遠鏡を用いて観察し、出現した種、種ごとの個体数を記録した。各調査期に複数回調査した場合は、多い方の個体数をその調査期の結果とした。

調査結果

今回の調査で観察されたカモ科鳥類は、マガン、ヒシクイ、ハクガン、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、シマアジ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホネジロガモ、ミコアイサ、カワアイサの18種で、水面採餌型カモであるマガモ属の種数が最も多かった。各調査地における調査結果をTable 1～5に示す。

ガン類3種のうち、マガンは4～5月に大沼と三日月沼だけで、ヒシクイは4～5月と9月にトイトッキ沼以外の沼で観察され、個体数はマガンでは春に600羽弱、ヒシクイでは秋に多く10～650羽であった。ハクガンは三日月沼で4月に2羽見られただけである。

オオハクチョウは全ての調査地で観察されたが、4月だけで、個体数も2～21羽と少なかった。

マガモとカルガモは全ての調査地で観察され、調査地によっては見られない月もあったが、4～9月を通して生息していた。マガモの生息数は、5月または6月まではあまり多くなく、7月または8月から増加し始め、8～9月に36～180羽といずれの沼でも最も多くなった。カルガモの生息数も同じような季節変化を

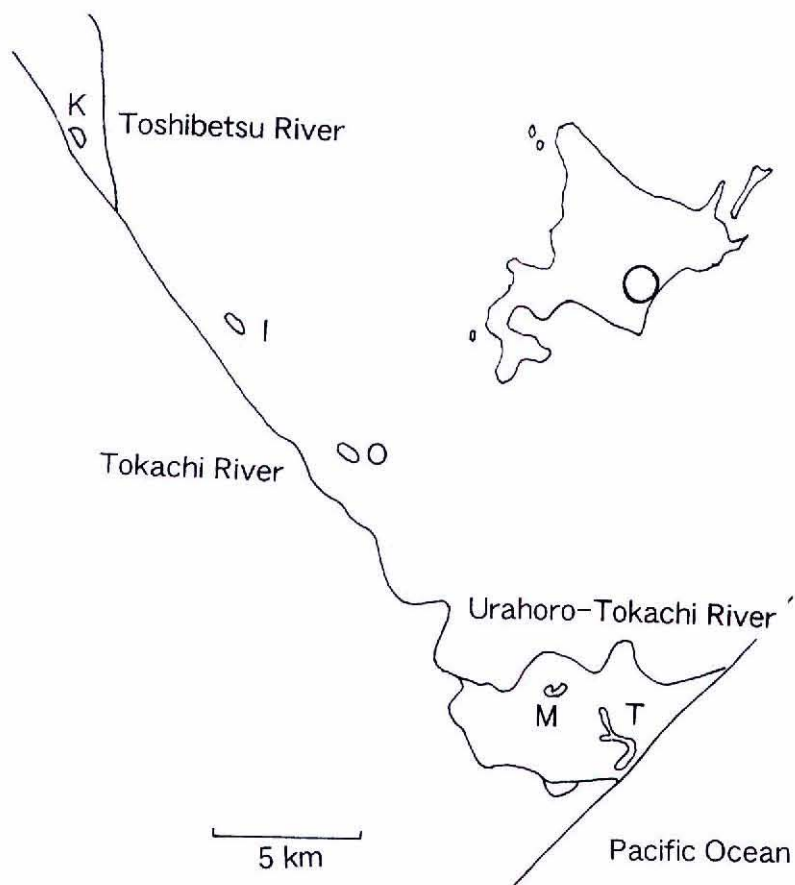


Fig. 1. A map showing study areas. K=Ikeda-Kimonto, I=Ikusotanuma, O=Onuma, M=Mikazukinuma, T=Toitokkinuma.

Table 1. Number of anatids counted on Ikeda-Kimonto from late April to late September 2000

Species	April	May	June	July	August	September
<i>Anser fabalis</i>	18	0	0	0	0	10
<i>Cygnus cygnus</i>	3	0	0	0	0	0
<i>Anas platyrhynchos</i>	5	3	5	36	45	25
<i>Anas poecilorhyncha</i>	0	0	0	0	1	17
<i>Anas crecca</i>	2	11	4	0	0	0
<i>Anas falcata</i>	7	0	0	0	0	14
<i>Anas penelope</i>	42	0	0	0	0	0
<i>Anas acuta</i>	72	0	0	0	0	0
<i>Anas querquedula</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Anas clypeata</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Aythya ferina</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Aythya fuligula</i>	18	8	2	0	0	0
No. of species	8	3	3	1	1	2

Table 2. Number of anatids counted on Ikusotanuma from late April to late September 2000

Species	April	May	June	July	August	September
<i>Anser fabalis</i>	0	0	0	0	0	11
<i>Cygnus cygnus</i>	5	0	0	0	0	0
<i>Anas platyrhynchos</i>	0	4	1	2	7	45
<i>Anas poecilorhyncha</i>	2	1	0	1	0	4
<i>Anas crecca</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Anas falcata</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Anas penelope</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Anas acuta</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Anas querquedula</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Anas clypeata</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Aythya ferina</i>	2	0	0	0	0	0
<i>Aythya fuligula</i>	42	57	10	0	0	0
<i>Mergus albellus</i>	1	4	0	0	0	0
No. of species	5	4	2	2	1	1

Table 3. Number of anatids counted on Onuma from late April to late September 2000

Species	April	May	June	July	August	September
<i>Anser albifrons</i>	0	8	0	0	0	0
<i>Anser fabalis</i>	4	15	0	0	0	8
<i>Cygnus cygnus</i>	2	0	0	0	0	0
<i>Anas platyrhynchos</i>	6	7	12	3	12	10
<i>Anas poecilorhyncha</i>	1	1	0	0	5	0
<i>Anas crecca</i>	2	30	8	0	0	0
<i>Anas falcata</i>	2	0	2	6	7	3
<i>Anas penelope</i>	23	40	0	0	1	0
<i>Anas acuta</i>	216	159	0	0	0	0
<i>Anas clypeata</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Aythya ferina</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Aythya fuligula</i>	15	7	11	0	0	0
<i>Mergus albellus</i>	7	2	0	0	0	0
<i>Mergus merganser</i>	1	0	0	0	0	0
No. of species	11	9	4	2	4	2

Table 4. Number of anatids counted on Mikazukinuma from late April to late September 2000

Species	April	May	June	July	August	September
<i>Anser albifrons</i>	583	36	3	0	0	0
<i>Anser fabalis</i>	240	92	3	4	2	0
<i>Anser caerulescens</i>	2	0	0	0	0	0
<i>Cygnus cygnus</i>	21	0	0	0	0	0
<i>Anas platyrhynchos</i>	5	5	2	9	21	31
<i>Anas poecilorhyncha</i>	0	0	0	0	0	0
<i>Anas crecca</i>	14	46	6	0	0	0
<i>Anas falcata</i>	4	4	0	0	0	0
<i>Anas penelope</i>	21	109	28	0	0	0
<i>Anas acuta</i>	139	60	0	0	0	0
<i>Aythya fuligula</i>	20	16	13	2	3	0
<i>Bucephala clangula</i>	2	0	0	0	0	0
<i>Mergus albellus</i>	4	2	0	0	0	0
No. of species	12	9	6	3	3	1

Table 5. Number of anatids counted on Toitokkinuma from late April to late September 2000

Species	April	May	June	July	August	September
<i>Cygnus cygnus</i>	10	0	0	0	0	0
<i>Anas platyrhynchos</i>	3	5	2	0	4	3
<i>Anas poecilorhyncha</i>	0	1	0	0	0	3
<i>Anas crecca</i>	52	103	28	0	0	0
<i>Anas falcata</i>	0	6	0	0	0	0
<i>Anas penelope</i>	8	21	5	0	0	0
<i>Anas acuta</i>	6	6	0	0	0	0
<i>Anas querquedula</i>	0	1	0	0	0	0
<i>Anas clypeata</i>	10	0	0	0	0	0
<i>Aythya ferina</i>	0	0	1	0	0	0
<i>Aythya fuligula</i>	7	23	6	0	0	0
<i>Aythya marila</i>	2	9	4	0	0	0
<i>Bucephala clangula</i>	2	2	0	0	0	0
<i>Mergus albellus</i>	19	8	0	0	0	0
<i>Mergus merganser</i>	6	0	0	0	0	0
No. of species	11	11	6	0	1	2

示したが、全体にマガモに比べて少なく、三日月沼のように9月に1羽しか見られない調査地もあった。

ヨシガモは大沼では4～9月を通して生息していたが、池田キモントーでは4、7、9月に、それ以外の沼では春と秋に観察されただけである。個体数は、9月に大沼で50羽が数えられた例を除くといずれの沼でも20羽以下であった。

4～9月を通して生息していたマガモ、カルガモ、ヨシガモの3種のうち、マガモとヨシガモでは雌と幼鳥からなる家族群の観察により繁殖が確認された。マガモは池田キモントーで6家族群、育素多沼と大沼で1家族群ずつ、三日月沼で2家族群、ヨシガモは大沼

の1家族群であった。家族群内の幼鳥数は、マガモでは6月下旬に1～9羽、平均値(±標準偏差)は5.1±2.9羽(n=8)、7月下旬に4～7羽、平均値5.5羽(n=2)、ヨシガモでは7羽(n=1)であった。

コガモは4～5、8～9月に観察され、個体数はトイトッキ沼を除くと、春より秋に多く、8月下旬から増え始め、44～162羽であった。

ヒドリガモはおもに4～5月と9月に、オナガガモはおもに4月と9月に観察され、秋に少数個体しか見られなかった育素多沼を除くと、両種とも個体数は秋より春に多く、ヒドリガモで21～109羽、オナガガモで6～216羽であった。

シマアジは5月にトイトッキ沼で1羽、9月に池田キモントーと育素多沼で1～3羽が見られただけ、ハシビロガモは4月にトイトッキ沼で10羽、9月に池田キモントー、育素多沼、大沼で1～4羽が見られただけで、両種とも個体数は少なかった。なお、シマアジはおもにコガモの群れの中にいた。

以上のように、マガモ属は8種で、そのうち3種が4～9月を通して生息しており、他の5種はおもに春と秋の渡り時期に飛来した。

ホシハジロは4～5月と9月に観察されたが、個体数は少なく1～3羽で、三日月沼ではまったく見られなかった。

キンクロハジロはおもに4～5月と8～9月に観察された。スズガモ属3種の中では最も個体数が多く、春には15～57羽、秋には2～61羽が数えられた。

スズガモは4～5月に調査地のうち最も海に近いトイトッキ沼だけで観察され、個体数も10羽以下と少なかった。

ホオジロガモも、おもに4～5月に海に近い三日月沼とトイトッキ沼だけで観察され、個体数も2羽と少なかった。

ミコアイサは4～5月に池田キモントー以外の四つの沼で、カワアイサは4月に大沼とトイトッキ沼で観

察された。個体数はミコアイサがトイトッキ沼で19羽が数えられた以外は、両種とも10羽以下と少なかった。

マガモ、カルガモ、ヨシガモの3種以外の種は、おもに春と秋、または春だけに飛来するため、種数は4～5月と8～9月に多く、その間には少なくなるという季節変化が見られた (Table 1～5)。

次に、観察されたカモ科鳥類をガン類、ハクチョウ類、水面採餌ガモ、潜水ガモ (アイサ類を含む) の4グループに区分し、個体数 (沼面積10ha当たり) の季節変化を見てみる (Table 6)。

ガン類は、おもに春の渡り時期に大沼と三日月沼で個体数が多くなったが、他の沼では全体に個体数が少なく、はっきりした季節変化は見られなかった。ハクチョウ類はオオハクチョウ1種だけで、個体数の季節変化についてはすでに述べたとおりである。

水面採餌ガモの個体数は、4月と9月のガン類の個体数を除くと、上記4グループの中では最も多く、春と秋の渡りの時期に多くなり、夏には一部の種だけが観察されるようになるため減少した。

潜水ガモはおもに春と秋の渡りの時期に飛来した。個体数はこの時期に多くなり、それ以外の時期には少なく、7月にはどの沼でもまったく見られなかった。

Table 6. Numbers of birds counted on 5 shallow lakes from late April to late September (/10ha). K=Ikeda-Kimonto, I=Ikusotanuma, O=Onuma, M=Mikazukinuma, T=Toitokkinuma.

		April	May	June	July	August	September
Geese	K	9	0	0	0	0	5
	I	0	0	0	0	0	6
	O	2	9	0	0	0	3
	M	589	91	4	3	0	179
Swan	T	0	0	0	0	0	0
	K	1	0	0	0	0	0
	I	3	0	0	0	0	0
	O	1	0	0	0	0	0
Dabbling ducks	M	15	0	0	0	0	0
	T	4	0	0	0	0	0
	K	61	7	4	17	21	12
	I	1	3	1	2	4	3
Diving ducks*	O	100	95	9	4	10	5
	M	131	160	26	6	15	22
	T	28	51	13	0	1	2
	K	9	4	1	0	0	0
Diving ducks*	I	25	34	6	0	0	0
	O	9	4	4	0	0	0
	M	19	13	9	1	2	0
	T	13	15	4	0	0	0

考 察

十勝川下流部沿いにある沼5か所では、4～9月に18種のカモ科鳥類が観察された。育素多沼では1983～1985年に調査されているが、今回の18種以外の種は記録されていない（日本野鳥の会十勝支部 1986）。ただ、ヒシクイ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、オナガガモの個体数は4月に、キンクロハジロの個体数は4月と9月に今回の結果より多かった。このほか、これまでに十勝地方の平野部の沼では湧洞沼（沼面積373ha）でカモ科鳥類の生息状況が調べられている（正富ほか 1978）。それによると、4～9月に観察されたカモ科鳥類は、今回の18種のうちハクガンを除く17種で、種類相はよく似ている。ハクガンは、日口共同の増殖事業の結果、最近北海道へは毎年数羽が飛来するようになっており、湧洞沼の調査が行われた1970年代末の状況とは異なっている。この点を考慮すれば、以上の18種が十勝平野南部におけるカモ科鳥類相と比べてよいであろう。ただし、湧洞沼では繁殖期にマガモ、カルガモ、ヨシガモのほか、シマアジ、キンクロハジロ、スズガモ、カワアイサも観察され、この時期に種数が多いこと、また沼の周囲には森林がありカワアイサが繁殖している点は調査地と異なっている。

全種の個体数は、今回の調査地でも湧洞沼でも、春と秋の渡り時期に多くなる点では同じであるが、調査地に比べて湧洞沼では水面採餌型ガモの個体数（/10ha）が5～7月には2羽以下、8月に19羽、9月に96羽と夏の間少なく、潜水ガモが5～7月には6～19羽、8月に30羽、9月に44羽と全般に多い点が異なっている（正富ほか 1978）。したがって、カモ類のうち潜水ガモが占める割合は、9月の31%を除けば、61～98%と多く、しかもその90%近くはスズガモで、両グループの相対優占度は調査地とはかなり異なっている。この違いは、湧洞沼が海に近く、増水時には海と連絡し汽水となることや大面積であることによるとおもわれる。

十勝地方には平野部の河川や沼のほか、十勝川水系上流の山間部に湖やダム湖があり、これらの水域もカモ類の生息地となっている。これらの水域のうち、これまで4～9月にカモ類の生息状況が調べられているのは、十勝川上流部にある大小いくつかのダム湖、十

勝川水系の一つである音更川とその上流部のダム湖である。この時期にこれらのダム湖や音更川の山間部（清水谷より上流）で観察されているのは、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、シマアジ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、シノリガモ、カワアイサの12種で（芳賀 1976, 1979, 1981a, 1981b, 芳賀・永山 1980, 川辺 1988, 藤巻 1995, 2001）、種数は平野部の沼の方が多い。このうち、オシドリとシノリガモは平野部の沼では観察できなかった種で、十勝地方全域における調査でもオシドリは平野部ではほとんど観察されない種である（藤巻 1993）。生息期間をみると、山間部の水域で4～9月を通してみられるのはオシドリ、マガモ、カワアイサの3種で、シノリガモは4～7月に、その他の種はおもに4～5月と9月に見られている（芳賀 1981a, 藤巻 2001）。また、縦づれの家族群の観察から、その周辺で繁殖したと考えられているのは、オシドリ（藤巻 1995）、マガモ（芳賀 1981b, 川辺 1988）、シノリガモ（芳賀 1979）、カワアイサ（川辺 1988, 藤巻 2001）の4種である。

山間部の水域におけるカモ類の個体数は、5月と9月に多くなる季節変化であること、グループ別にみると潜水ガモより水面採餌ガモの方が多い点（芳賀 1981a, 藤巻 2001）は、調査地における状況と同じである。しかし、4～9月の個体数（/10ha）は、水面採餌ガモの場合多い月でも5～34羽と少なく、潜水ガモでは0～4羽とさらに少なかった。とくに川では非常に少ない（川辺 1988）。山間部の水域でカモ類の個体数が少ないのは、平野部の水域に生息するヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサなどが山間部には飛来せず、種数が少ないこと、また山間部と平野部とで共通する種でも個体数は山間部の水域における方が少ないためである（藤巻 2001）。とくに河川で少ないのは、山間部では川の流れが速く、休息に適していないからであろう。

以上、十勝川下流沿いの沼5か所における4～9月のカモ科鳥類の生息状況を、同じ十勝地方の平野部にある湧洞沼、山間部のダム湖と比較し、特徴を明らかにした。それらは以下のとおりである。1）おもに春と秋の渡り時期にガン類3種、春にオオハクチョウが飛来する。2）水面採餌ガモは8種で、そのうちマガモ、カルガモ、ヨシガモは4～9月を通して、その他

の種はおもに春と秋の渡り時期に観察される。3) 水面採餌ガモのうち、マガモとヨシガモが繁殖する。4) 潜水ガモは6種で、おもに春と秋の渡り時期に観察される。5) 個体数の上では潜水ガモより水面採餌ガモの方が多く、6) 山間部に生息するオシドリとシノリガモは観察されない。

引用文献

- 藤巻裕蔵, 1993. 北海道十勝地方におけるオシドリの生息状況. *Strix* 12:171-176.
- 藤巻裕蔵, 1995. 4. 富村調整池の鳥類, 十勝川水系上流地域の生態調査報告書XVI富村発電所建設の事後生態調査(1993), 177-186.
- 藤巻裕蔵, 2001. 北海道十勝地方の鳥類9. 十勝川上流部ダム湖の水鳥類. 帯大研報 22:95~101.
- 芳賀良一, 1976. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書IV. 上岩松ダム周辺部の自然環境, 67-76.
- 芳賀良一, 1979. 5. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書VII. 富村発電所建設の事後生態調査(1978), 97-158.
- 芳賀良一, 1981a. 5. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書IX. 富村発電所建設の事後生態調査(1979), 133-156.
- 芳賀良一, 1981b. 5. 河川流域の哺乳類および鳥類. 十勝川水系上流地域の生態調査報告書X. 富村発電所建設の事後生態調査(1980), 185-234.
- 芳賀良一・永山盛敏, 1980. 第1章陸上生物. 十勝ダム環境調査報告書, 39-51.
- 川辺百樹, 1988. 北海道, 音更川の水辺性鳥類. ひがし大雪博物館研究報告, (10):27-36.
- 正富宏之・藤巻裕蔵・川辺百樹・橋本正雄・中田千佳夫 1978. 湧洞沼及びその周辺の鳥類相.. 野鳥生息環境実態調査報告書, 湧洞沼, 43-76.
- 日本野鳥の会十勝支部 1986. 育素多沼の鳥類. *Strix* 5:23-29.

Summary

Anatids occurring on waters surrounded by agricultural lands were censused in five shallow lakes, Ikeda-Kimonto, Ikusotanuma, Onuma, Mikazukinuma and Toitokkinuma (21, 18, 25, 14, 28 ha respectively in size of water area), along the lower reaches of Tokachi River from late April to late September 2001. A total of 18 species of anatids, *Anser albifrons*, *Anser fabalis*, *Anser caerulescens*, *Cygnus cygnus*, *Anas platyrhynchos*, *Anas poecilorhyncha*, *Anas crecca*, *Anas falcata*, *Anas penelope*, *Anas acuta*, *Anas querquedula*, *Anas clypeata*, *Aythya ferina*, *Aythya fuligula*, *Bucephala clangula*, *Mergus albellus* and *Mergus merganser* were recorded. Of them, *A. platyrhynchos*, *A. falcata* and *A. poecilorhyncha* occurred from April to September and the former two species bred in this area. Other species occurred mainly during spring and autumn migrating seasons. Numbers of birds decreased from April to June and increased from July to September. Dabbling ducks were greater than diving ducks in numbers.